

天主閣

だより



マキキ聖城キリスト教会

「新年、二〇一一年を活かして」

マキキ聖城キリスト教会牧師 黒田 朔

主にありて、

新年明けましておめでと〜いございます。

「時」は不思議なものです。丁度、川の流
 れのように、たゆみなく流れていきますのに、
 一二月三日が終わると、まるで時の流れに
 区切りがあるかのように、二〇一一年が訪れ、
 新年を迎えます。このように「時」の流れに
 区切りをつけることは限られた時間を良く
 生きるようにと神様がわたし達人間に下さ
 った知恵だと思います。ある詩人の祈りです。
 「それゆえ、私たちに自分の日を正しく数
 えることを教えてください。そうして私た
 ちに知恵の心を得させてください。」(詩
 篇 九〇篇一二節) これこそ新年を迎えた
 わたし達が二〇一一年を良い年として過ご
 すためのお互いの祈りです。

英語の「ライフ」には人生、命、生活と言っ
 た意味があるように、新約聖書には「時」を表
 す三つのことばがあります。先ず、短いか
 長いという時間(クロノス)、次に、特別な
 意味を持つ機会(カイロス)、そして最後に、
 時刻つまり、限定された時(ホーラ)です。
 言うならば、「時間(クロノス)を何のための
 機会(カイロス)として用いるかを考え、それ
 を何時(ホーラ)実行するかを考えましょう。」
 という事が出来るでしょうか。

つまり、わたし達は今、二〇一一年と言う
 時の流れの前に立っています。あなたはこの
 流れをふさわしい器に汲み上げて、活かし、
 あなたの目的のために用いる事が出来ます。
 しかし、何も考えずにいるなら、ただ時間は
 流れ続けて、やがて、二〇一一年は流れ去り、
 二〇一二年がやって来ます。

わたし達にとっては、二〇一一年を、二八
 年間、共に歩ませていただいたマキキ教会で
 の生活に区切りをつける年とし、自称「教会お
 助けマン」という新しいミニストリーを通し
 て、わたし達に出来るお手伝いをさせて頂き、
 先生方や教会のお役に立てればと願っていま
 す。七〇歳にして全く始めての、又、あまり
 他に例を見ない働きです。今まで養われてき
 た信仰が試され、更なる献身が問われる時と
 してチャレンジに満ちていますが、今まで導
 いてくださった主に従い、新しい経験の中で
 楽しみ、成長する「時」(カイロス)となるよ
 うにと夫婦して祈っています。

ところで、あなたにも二〇一一年と言うク
 ロノスを、あなたが祝福され、成長するカイ
 ロスとして活かし、そのためのホーラに向っ
 て歩き始めていただきたいのです。又、愛す
 るマキキ教会が二〇一一年を具志堅聖先生、
 啓恵夫人を新しい牧師夫妻としてお迎えし、
 ニューチャプターを楽しみ、喜ぶ一年とする
 ために、今から期待し、祈り、備えて頂き
 たいのです。

今年、日本語ミニストリー主題聖句は
 「わが神。私はみこころを行うことを喜びと
 します。あなたのおしえは私の心のうちにあ
 ります。」(詩篇 四〇篇八節)です。

この主題聖句はわたし達を神様と共に歩く
 基本にとどめてくれることでしょう。
 さあ、ご一緒に心一杯叫びましょう。

「ハレルヤ!主よ、新年を感謝します!」

ドクター小林のひとりごと...

「イエスが山から降りて来られると、多く
 の群衆がイエスに従った。すると、ひとりの
 らい病人がみもとに来て、ひれ伏して言った。
 「主よ、お心一つで私をきよめることがおで
 きになります。」イエスは手を伸ばして、彼に
 さわり、「私の心だ。清くなれ」と言われた。
 するとすぐに彼のらい病はきよめられた。」
 (マタイ八章一節―二節)

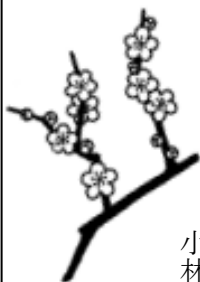
この御言葉は、医師として治療をする際の
 重要な教えを含んでいます。当時、いかにら
 い病が多かったかは聖書の記載でよくわかり
 ます。接触感染のため、らいの患者は健康な
 人に近づく事は禁止されていました。らいの
 患者は健康者が近くに来ようとすると、大声
 で「けがれている」と警告の叫びをしなけれ
 ばいけませんでした。この御言葉の場面では、
 大群衆がその場にいました。

おそらくらい病人が近づいて来たとき、気
 がついた人々は叫んで離れようとしたはずで
 す。

らい病人がイエスのもとに来たときは、群
 衆は遠まきにして立っており、主イエスとら
 い病人だけが輪の中心にとり残されていま
 した。
 らい病人は人から嫌われ、避けられる存在
 でした。ところが主イエスは逃げませんでした。

それどころか、らい病人に触られたので
 す。お心ひとつで私を清めることがおできに
 なります。」このらい病人は私をいやして下
 さいと言ったことができませんでした。人から
 拒絶ばかりされると、こんなしゃべり方とな
 ってしまいます。しかし、主イエスはその心
 を深く憐れんでくださったのです。

人の心の傷を理解し、深い同情の心を持つ
 こと、これが人の治療をする者の心構えであ
 ると、聖書は教えていると思います。



小林 恵一

テリーさんの簡単クッキング “ばらずし”

じゃこ入りのすしめしに、干し椎茸、れんこん、
 かんぴょう等を混ぜた素朴な家庭ずし。
 ごちそうばかりのシーズンの後でも
 皆で楽しめる食べやすい一品です。

<材料>

- 米3カップ、干し椎茸6個、れんこん半節、人
参1本
- ちりめんじゃこ半カップ、だし昆布15セン
チ、卵3ケ
- 酒、みりん、塩、酢、しょうゆ、サラダ油、砂
糖、
- 紅しょうが少々

<作り方>

- ① 米はといでザルに上げ1時間以上おく。
- ② 米3カップに水3カップとだし昆布、酒
1/4を加え炊く。沸騰直前に昆布を出す。
- ③ 干し椎茸は水に入れもどし干切り。かんぴ
ょうは塩もみし洗い1センチに切る。れん
こんは薄いいちょう切り。
- ④ 鍋に③と椎茸のもどし汁1杯半カップ、砂
糖大さじ1.5、しょうゆ大さじ2、みりん
大さじ1/2を加え、弱火で10~20分煮る。
- ⑤ ちりめんじゃこは酢洗する。
- ⑥ すし酢は、酢大さじ4、砂糖大さじ2、塩
小さじ1と2/3を混ぜ合わせる。
- ⑦ 炊き上がった御飯に⑥をかけ、さます。④
と⑤の汁をきり、このすしめしに混ぜる。
- ⑧ 卵をといて、みりん小さじ1と塩少々をま

今月の証

「ボクが見た奇跡」

中川 新也

日本に居る頃から教会を避け続けていた私が今、このような文章を書いているとは驚きです。人生はまさに「神のみぞ知る世界」ですね。

はじめて感銘を受けたクリスチャンと会ったのはマキキ教会のM夫妻が高知の私の実家に泊まった昨年の四月が終わろうとしている時でした。M夫妻の旦那さんはいつもとにここしていて楽しい方なのですが、はたから見たらとってもぶっ飛んだおかしな方でもありました。大きな身体で「イヒヒヒ、ウヒヒヒ」と笑い、最初は怖かったです。そして口を開けたら一言目には神様、イエス様、聖霊様、二言目には奇跡だの恵みだの・・・。観光スポットに連れて行く日本人に嫌がられているにも関わらず誰にでも福音を述べ伝え、どんなに周りが奇異の目で見てもお構い無しでお祈りをする、初めて彼らを見たときは頭がおかしいんじゃないのか、と世間一般的なカルト宗教と同じように感じ、いつ私をネズミ講に引っ掛けるのかとびくびくしていました。彼らからは散々神様の事を聞かされました。しかし、自分以外の家族が全員バプテスマを受けているにも関わらず、その頃の私は自分だけはクリスチャンにはならないだろうと決めていました。彼らの話は偶然、たまたま、まぐれという言葉が出てこず、ドラマや映画のようであり、とても一般人の経験とは思えなかったからです。こうしたクリスチャンは特別なのだと、私のような一般人には関係ないものだと思いついていました。

ただ何日か一緒に話しているうちに、この人たちはイエス様という一本芯の通ったものを持つている。自分たちが限られた人生の中で何をすべきか、それを遂行するために毎日を生きている、ということを感じました。

ちょうどその頃、私は人生が行き詰まっている状態でした。自分がこれからどう生きるのか、どのように人生を歩むのかと自分自身に問いかけても答えは出ず、これからの人生に希望が持てないでいました。

人生に行き詰まっていた私は母の勧めで英語の学びのためにハワイに来て暮らし始めました。そして、黒田牧師のお宅にホームステイさせていただいている事もあり、教会に通い始めました。しかし、日本語が通じるといっても一応アメリカ。日本ではまったく教会には行っておらず、ほとんど知らない人ばかりのコミュニティーに飛び込んでいくのはストレスを感じることもありました。しかし教会に行き、黒田先生、栗原先生の説教を聞き、ミニチャーチに参加することで神様いるかもしれないと心境はどんどん変化していききました。

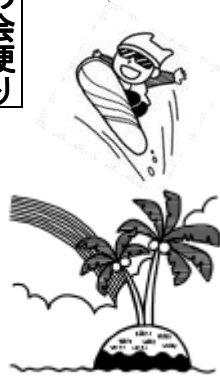
ニューメンバークラスも受けていましたが、今はまだ早いと思っていました。何より自分は奇跡を経験しておらず、もし神様が私をクリスチャンにするなら自分に何か与えてくださるはずだ、と考えていました。

バプテスマを受けようと思ったのは十二月初旬です。ニューメンバークラスを取っている人は黒田牧師に時間を設けてもらって今の自分について話すことが出来ました。そこで、私は自分の今の心境を話してみることにしました。自分の考えを話しているまさにその時、頭の中に『いま私がここに居る事、こうして生きている事は奇跡じゃないのか？半年前の

日本での日々を鑑みると今の生活は想像も出来ないことであり、これを奇跡と呼ぶのではないのか？』と何か音が聞こえました。

その瞬間、背負っていたリュックを下ろしたように身体が軽くなり、自分の皮膚の上の薄い膜が張ったような感覚になりました。そこでどうとう本当の意味で神様が私に奇跡を見せ続けていてくれたことに気づくことが出来たのです。その場ですぐに信仰告白をして決心ができ、どしゃ降りの中、十九日にバプテスマを受けました。

今はとても毎日が楽しく、自然に笑顔になっています。神様に守られていることを知っているからでしょうね。ハレルヤ!!!



のぞみの会便り

去年一年もいろいろなことがありました。ボランティアとして長年多くの働きをしてきたラリー・ミヤシロさんが天国に召されました。いつも静かにやさしい存在であったラリーさんがなくなつたことはのぞみの会のメンバーやボランティアにとつてとてもつらいことでした。でも私たちは神様のもとでまたラリーさんに会えます。クリスチャンとはなんとすばらしいことでしょうか。私たちクリスチャンには生きる希望もあり天国での希望もあります。のぞみの会にいとこのことを本当に実感するのです。今年一年も神様の恵みをうけてのぞみの会が輝きつつげられますように。(直)

のぞみの会 毎週水・金 朝九時〜十二時

お知らせ

二〇一一年ラブラブノートの記入があります。今までの奉仕の続行や、新しい奉仕へのトライ！新しい年に新しい自分、神様の祝福が溢れますように。

編集後記

あけましておめでとうございます。今年も元気ががんばります！どうぞよろしくお願ひいたします！

大塩 直子

先月から新しいコーナー「ドクター小林の独り言・・・」が始まりました。ドクター小林は本物のお医者さまですが、本業以外にも音楽、芸術、執筆と、とにかく多才！その一つ一つの賜物を主のご用のために使つて下さることを嬉しく思うと同時に感謝しています。

皆さんのなかにも「爪を隠して」いらつしやる方！今年はどうぞん出していましましよ！

玉寄 朋子

クリスチャンになって十七年が過ぎる最近のわたしですが、更年期突入というお年頃もあって、守りの態勢になつてしまつています。でも、天主閣の記事と証しで励まされました。神様について行けば大丈夫。成長できる若い心と(少しだけ若い見た目)を持ち続けられればと年頭に思います。

松浦由紀子

責任者 黒田 朔
編集者 松浦 由紀子・大塩直子
玉寄 朋子